(C)十勝毎日新聞社

日本女子銀 4年連続

団体追い抜き決勝 韓国に苦杯

World Junior Speed Skating Championships® 2012 Obihiro

最終日は4日、明治北海道十勝オーバルで4種目を行った。団体追い抜きの女子決勝は日本（高木美帆＝帯南商高2年＝、高木菜那＝日本電産サンキョー＝帯南商高出＝、樋沙織＝群馬・嬬恋高2年＝）が韓国に敗れたが、4年連続の銀メダルを獲得した。韓国は2連覇。同男子の日本は予選で敗退。ノルウェーが2年ぶりに制した。距離別の女子500㍍は高木美帆が2本合計79秒44で3位、山根佳子（帯柏葉高1年）が4位に食い込んだ。優勝はカロリナ・エルバノバ（チェコ）。男子1000㍍は長谷川翼（白樺学園高3年）が12位、荻野達哉（同3年）が15位に終わった。優勝はパベル・クリズニコフ（ロシア）。

（岡部彰広、塩原真）

ラップ保てず メダル逃し悔い

日本男子

○…団体追い抜きの日本男子は、予選でリンクレコードながら5位に終わり敗退。中心選手の中村奨太（駒大苫小牧高3年）は「最初から飛ばしていくだけだったが、我慢しきれなかった」と肩を落とした。

韓国との予選は4周目までリードしたが、だんだんラップタイムを落とした。一定のタイムを刻む韓国とは対象的だった。「疲れがたまっていたし、練習がほとんどなかったので、息が合わなかった」。さらにひと呼吸置いて「最低限、1つはメダルが欲しかった」と、望んだ結果が得られなかったことを悔しがった。

【男子団体追い抜き】直線でスピードに乗る男子団体追い抜き日本ジュニア代表

高木姉妹率いる日本女子 序盤リードも地力に差

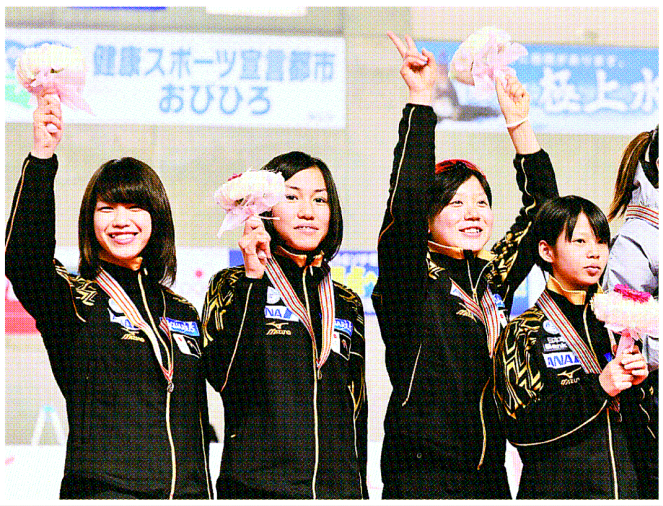
ほろ苦い銀メダルだった。高木菜那、美帆姉妹を核とした日本は、決勝で韓国に大きな力の差を見せつけられた。美帆は「銀は取れたがずっと銀。金が欲しかったな」と残念がった。

団体追い抜きは、日本女子がバンクーバー五輪で銀メダルを取った団体種目。3人のうち先頭が風よけとなりながら6周を滑る。3人の実力とともに呼吸が必要だ。予選でオランダがスタート直後の混戦で絡まり1人が転倒したように、気が抜けない。日本は特化した練習は積んでいない中で予選9チーム中2番目の成績を収め、この時点で2位以上を確定させた。

予選とメンバーを1人入れ替えての決勝は、予選のように1人が遅れてもカバーしやすいように姉妹の間に選手を挟む工夫をし、3周目までは韓国をリードしたが、健闘はここまで。だんだん差を広げられ、最後は隊列もばらけた。

氷上で指示を送っていた東出俊一コーチ（帯南商高監督）は「予選で銀メダルを決めるために足を使ってしまった」と、やむを得ない部分があったことを明かしながら、韓国の強さを認めた。「ピョンチャン（平昌）五輪（2018年）が決まって気合が入っている。メダル候補だ」。

しかしここでとどまっているわけにはいかない。同五輪時の主力候補となる選手たちの自覚と奮起がこれまで以上に必要だ。



2位に入賞し表彰台で笑顔を見せる女子団体追い抜き日本代表選手（右から高木菜那、高木美帆、樋沙織、高山梨沙）

【女子500㍍２回目】競技終了後リンク上で談笑する山根佳子（右）と高木美帆

距離別女子500

高木美3位 山根4位

男子1000 長谷川12位、荻野15位

2回目美帆に勝利 「充実した3日間」

山根

○…「充実した3日間だった」。女子500㍍2回目は、インターハイ同種目女王の山根佳子が、憧れの高木美帆と同走し、先行してフィニッシュ。初日に出した500㍍の自己ベスト記録をさらに更新、4位に食い込んだ。

今大会は笑顔が止まらなかった。岐阜国体出場後は、明治オーバルで開かれた全国選抜高校競技会を回避。今大会のために調整してきた。初日にこれまでの自己ベストを一気に0・67秒更新。初めて40秒の壁を突破し、気を良くして最終日に臨んだ。

全日本スプリント選手権以来の一緒の滑走となった高木をバックストレートで追うと、最終コーナーで射程に捉えた。「先輩は疲れがあったと思う」と話しながら「それでも勝てたことはうれしい。来年につながる」。

実力差を痛感 長距離に意欲も

長谷川

○…距離別に出場の長谷川翼は、自己新記録をたたき出した500㍍に続き、1000㍍も12位ながら明治オーバルの自己記録を更新した。

ただ世界トップクラスとの実力差を痛感する大会となった。「技術が下手くそ。世界と比べるとまだまだ」。今季の国内ジュニアクラスのトップスプリンターも目からうろこが落ちるばかりだった。

1500㍍の強い選手が1000㍍も強いことを改めて肌で感じた。「来年は長い距離にも挑戦したい。夏場から体力をつけたい」と欧州勢との力の差を縮める意志を強く固めた。

自己新ならずも 「勉強になった」

荻野

○…荻野達哉は距離別の3種目に出場。「自己ベスト記録を狙ったが、出せずに悔しい。3日間を戦う体力や技術もなかった」と振り返った。

ただ同じ種目を滑って疲れているはずの外国人選手から学んだこともあった。「気持ちが違うことが分かった。滑り抜こうという力が伝わってくる。国際大会はいい勉強になった」。

4日後のジュニアワールドカップが貴重な復習の機会になりそうだ。

（7位以下関係分）

＜距離別＞

【男子】◇1000㍍

世界ジュニア記録	ビヨルン・ナイエンハウス（オランダ）	1分8秒53
日本ジュニア記録	加藤　条治（山形中央高）	1分10秒67
日本高校記録	加藤　条治（山形中央高）	1分10秒67
リンク記録	イ・ギュヒョク（韓国）	1分9秒44
①パベル・クリズニコフ（ロシア）		1分10秒79
②ホーバル・ローレンツェン（ノルウェー）		1・11・24
③トミ・プリ（フィンランド）		1・11・30
④ローラン・デュプロイ（カナダ）		1・11・32
⑤キム・ウジン（韓国）		1・11・36
⑥キム・ジンス（韓国）		1・11・46
⑨小田卓朗（早大）1・12・20⑫長谷川翼（白樺学園高）1・12・63⑮荻野達哉（同）1・14・15		

◇団体追い抜き▽予選（8周）

世界ジュニア記録	ノルウェー　3分47秒45
日本ジュニア記録	日本　3分57秒59
日本高校記録	日本　3分57秒59
リンク記録	駒大苫小牧高　4分0秒61
①ノルウェー（スベーレルンデ・ペデルセン、シーメンスピラー・ニールセン、クリスティアン・フレデリクセン）	3分52秒11
②韓国（キム・ジンス、キム・チョルミン、イ・ジニョン）	3・53・75
③オランダ（トマス・クロル、ヨリヤン・ヨリツマ、カイ・フェルバイ）	3・56・30
④イタリア（アンドレア・ジョバンニーニ、アンドレア・ステファニ、ニコラ・トゥモレロ）	3・57・93
⑤日本（松井宏佑、中村奨太、小田卓朗）	3・58・49
	＝以上リンク新
⑥中国（楊帆、林浩天、楊振東）	4・1・87

▽決勝

①ノルウェー（スベーレルンデ・ペデルセン、ホーバル・ローレンツェン、クリスティアン・フレデリクセン）	3分54秒02
②韓国（キム・ジンス、キム・チョルミン、イ・ジニョン）	3・55・69

▽3・4位決定戦

③オランダ（トマス・クロル、ヨリヤン・ヨリツマ、カイ・フェルバイ）	3分56秒34
④イタリア（アンドレア・ジョバンニーニ、アンドレア・ステファニ、ニコラ・トゥモレロ）	3・58・94

【女子】◇500㍍

世界ジュニア記録	イ・サンファ（韓国）	37秒81
日本ジュニア記録	吉井小百合（三協精機）	38秒09
日本高校記録	高木　美帆（帯南商高）	38秒75
リンク記録	ジェニー・ウォルフ（ドイツ）	38秒03
①カロリナ・エルバノバ（チェコ）	78秒90	（③39秒63①39秒27）
②キム・ヒュニョン（韓国）	79・19	（①39・41③39・78）
③高木　美帆（帯南商高）	79・44	（②39・60⑤39・84）
④山根　佳子（帯柏葉高）	79・65	（⑤39・83④39・82）
⑤ケイト・ハンリー（カナダ）	79・83	（⑦40・06②39・77）
⑥タチアナ・カラニコワ（ロシア）	80・03	（④39・70⑧40・33）
⑨樋沙織（群馬・嬬恋高）	80・81	（⑩40・37⑪40・44）

◇団体追い抜き▽予選（6周）

世界ジュニア記録	カザフスタン　3分5秒45
日本ジュニア記録	日本　3分9秒68
日本高校記録	日本　3分13秒56
リンク記録	山梨学院大　3分13秒96
①韓国（パク・ドヨン、キム・ボルン、イム・ジンス）	3分8秒15
②日本（高木美帆、高木菜那、高山梨沙）	3・11・29
	＝以上リンク新
③カナダ（ケイト・ハンリー、ジョジー・スペンス、ヘザー・マクレーン）	3・15・52
④ロシア（アンナ・チェルノワ、オレーシャ・チェルネガ、タチアナ・ウシャコワ）	3・16・16
⑤米国（ペトラ・アッカー、ハナ・カーウィン、ジャクリン・ロウ）	3・16・23
⑥カザフスタン（イリナ・シュミヒナ、マリナ・イワノワ、ユリア・ゴンチャル）	3・17・82

▽決勝

①韓国（パク・ドヨン、キム・ボルン、イム・ジンス）	3分7秒36
	＝リンク新
②日本（高木美帆、高木菜那、樋沙織）	3・13・67

▽3・4位決定戦

③ロシア（アンナ・チェルノワ、アレキサンドラ・シェルコノゴワ、タチアナ・ウシャコワ）	3分14秒41
④カナダ（ケイト・ハンリー、ジョジー・スペンス、ヘザー・マクレーン）	3・16・02